

AZABU ALPINE CLUB

ALUMNI NEWSLETTER

麻布学園山岳部 OB 会会報第十三号 - 2012 年 6 月 25 日 - 発行者 AAC OB 会理事会

山岳部はこの春、新入部員 6 名が加わり総勢 35 名と相変わらずの人気。GW に行われた文化祭では、その展示が見事校長賞を受賞。夏合宿は北アルプス表銀座から裏銀座まで 10 泊に及ぶ合宿を計画しているとのこと。

総会開催

5 月 19 日 (土) 麻布学園の食堂にて 2012 年度の総会が開催されました。OB19 人、現役 11 人、先生 2 名の参加のもと議事が行われ、活動報告・会計報告・監査報告・新入会員など全議案が承認されました。任期満了に伴う理事選任では、現理事全員の重任に加え若手から 2 名が新たに加わりました。議事後には懇親会が開かれ、会員諸氏の近況報告など和やかなひとときを過ごしました。(議事詳細は別紙をご覧ください)

増子先生が退職。送別謝恩会を開催

去る 3 月 31 日、増子先生が麻布学園を退職されたので、現役・OB・現役父兄あわせて 100 人を超える出席者を集めて送別謝恩会が開かれました。



増子先生の退職を受け、今年度からは野本先生と若手の山本先生、山廣先生、江田先生の 4 名で山岳部の部活動を指導して頂くこととなりました。また、登山経験が少ないこともあり OB による支援に期待が寄せられています。

■ 増子先生からのメッセージ

この 3 月に山岳部を退職してから、はや 3 ヶ月を過ぎようとしています。週 3 日通う職場があるのですが、それは教職ではないので予習をしなくてもすみます。負担はあまりありませんが、時間はつぶれますので、暇になることを見越して頼まれていた仕事をこなすことができず、研究日すら確保されていない状況で、かえって以前より忙しく過ごしております。退職後の生活パターンがまだつかみ切れていないといったところです。



山岳部には長い間居続けて皆様にはご迷惑だったかもしれませんが、その間事故は「あり得ない」と言い続けてきましたが、正確には「あってはならない」ことなので、そのための努力を怠ってはなりません。日々のトレーニングは言うまでもなく、山行計画、装備の管理、部室の運営、

等々です。皆が受け身ではなく、自分から何が必要かを考えて行動して下さい。また、山岳部は山に入ったらもっとも非民主的な集団であるべきことも忘れないで下さい。ただしこれは、上級生がただ威張って良いということではありません。それなりの裏付けがなければ威張ってはいけないということです。そしてなによりもおおいに岳を楽しんで下さい。ちょっぴり冒険心も持って。皆さんの活躍を期待しています。(写真は 1978 年巻機山にて。上段右から二人目が増子先生。最下段が S59 卒今西～次頁参照)

新会員の声

今年 5 名の部員が卒業しこの度新たに OB 会に加わりました。

■ 渡邊真之

大学生になり自分のできることとできないことの区別が以前よりも明確にわかるようになってきた気がします。とりあえず、以前行った際には大雨で景色を楽しめなかった雲ノ平に再び訪れたいと思っています(もちろん金銭的余裕があればですが…)。1 人用テントなどをお持ちで譲ってくださる優しい方がいらっしやいましたらぜひとも渡邊にお声かけください。最後になりますが、今後ともよろしく願っています。



2011 年度春合宿・明神岳を望む

■ 吉川正悟

麻布学園山岳部では二年間会計を務めていました。山岳部では大雪山や薬師岳、北岳等いろいろな山に登りましたが、春

合宿に登った鳳凰三山は特に印象に残っています。あの美しい景色は一生忘れません。ところで、僕は東京医科歯科大学に入学してワンダーフォーゲル部に入りました。やはりワンダーフォーゲル部の部活動の中で、しばしば麻布学園山岳部を思い出しく思います。今年の夏合宿では一度麻布学園山岳部で行った大雪山に登ります。とても楽しみです。いつも一緒に山に登ってきた山岳部の仲間達がいなくて少し寂しいです。そのうち山岳部の仲間達で山に登りたいです。

■ 飯塚秀人

中高では最初から最後まで、麻布学園山岳部に所属していました。ほとんどの山行に行くことができたのは、仲間に恵まれたおかげだと思っています。慶應義塾大学医学部に進学し、医学部管弦楽団と医学部山岳部に入部しました。今年のゴールデンウィークには大学の山岳部で北穂高岳に登りました。医学部山岳部は人数が少なく現役学生は 6 人程しかいないため活動があまり活発でないことが残念です。また管弦楽団の活動に時間を多く取られそうなので、山に登る機会は少なくなってしまいそうですが、なんとか機会を見つけて登りたいと思います。よろしく願っています。



2011 年度冬合宿・北八ヶ岳

会員往来

小田薫さん (S23) 2011 年 6 月 21 日に亡くなりました。

山本玄さん (S42) 2012 年 1 月 30 日に亡くなりました。

お二人のご冥福を心よりお祈りします。

AZABU ALPINE CLUB

ALUMNI NEWSLETTER

麻布学園山岳部 OB 会会報第十三号 - 2012 年 6 月 25 日 - 発行者 AAC OB 会理事会

会員投稿

今回は昭和 29 年、39 年、49 年、平成 6 年卒業の会員にお願いしたところ、次の 5 名の方から近況や山の思い出が寄せられました。

■ 青木義明 (S29 卒)

昔々の物語です。私が入学したのは昭和 23 年六三三制に学制改革された年でした。そして中村さんが高校 3 年で残り、小倉さんが中学 5 年で卒業されました。

中村さんが山岳部の確立に頭を使われていた時期で、トレーニングも全学年一緒に中一にはなかなか見つかった。青山墓地までのマラソンが多く、霞町の坂から天気の良い日には富士山が遠望できました。その年の文化祭には山岳部はコーヒー店（当時では珍しい飲み物）を出して好評でした。御釜を父親と二人で虎ノ門から学校までリヤカーで運びましたが、六本木の坂を登るのに苦労しました。年度の末（3 月の休み）には丹沢神ノ川で合宿があり、田舎の橋本駅からバスで砂利道を青根に着きました。今は立派な村落となり、道も舗装され、私の相模湖インターへの通路になっており今昔の思い一杯です。そこから川岸を遡行しましたが、遠くに見える流木を「おっかモシカじゃないか」と言っていました。村長さんの許しを貰い、神社の祠を塙にしたのです。私は母手作りの毛布を播いて裾を折り返した寝具でしたが、隙間風が寒かったのを思い出します。

その時代の中学生の夏の合宿は学校の持っていた山中湖畔の旭が丘の建物でした。富士山には吉田の浅間神社まで 2 時間余りを歩き、6 時頃から登り始めるのですが懐中電灯の能力がよくないので 2、3 人に一人ずつ交替につけて夜明けの山頂まで切らさぬようにしたものです。

私たち 29 年卒の部員はある年から毎年、夫婦で昼食会、一泊旅行を一回ずつ催しています。伊藤、鹿島、内藤、南澤の諸君は元気ですが、早くに中村、そして松田、一杉が亡くなり寂しい思いもしております。

■ 油井大三郎 (S39 卒)



山岳部 OB 会にはご無沙汰ばかりで、恐縮しています。そこで、お詫び方々、一言近況を報告させていただきます。

現在は東京女子大学の国際関係専攻で教鞭をとっていますが、大学院の責任者でもあるので、大変忙しくしています。また、昨年 9 月まで日本学術会議の会員として高校の地歴教育改革を検討する責任者を務めた関係で、昨年 8 月に公表した改革案のとりまとめで苦労しました。現在の高校では週休 2 日制への移行や新科目の導入などの影響で、かつてのように世界史・日本史・地理の 3 科目をすべて教える時間はなくなっており、必修だが暗記用語の多い世界史を敬遠して、他の科目を教えていたのが 2006 年秋に発覚した「世界史未履修問題」でした。改革案では日本史と世界史とを統合した「歴史基礎」と「地理基礎」を新設し、ともに必修とするように提言しました。それをまとめる過程では麻布の先生とも交流したり、現役の生徒の前で講演する機会もあり、生徒達が大変活発に質問してくれたので、うれしく思いました。

山行はほとんどしていませんが、諏訪湖近くに山荘がある関係で八ヶ岳の山麓を時々散歩しています。皆さんのご健勝を祈っています。

■ 藤田信一 (S49 卒)

高校を卒業して以来、山からも、OB 会からもずっとご無沙汰しておりました。何年か前、小倉さんから OB 会の会合に出るようにお誘いを受け、今では OB 会の雑務をさせていただいています。生きていくことでは、相変わらずあたふたとしておりますが、最近では、高尾山や奥多摩などの低い山の日帰りの散策に行くようになりました。心に余裕ができ、山に目を向けることがやっとなるようになりました。



那須での遭難の時には、皆様にご迷惑をおかけし、諸先輩に大変お世話になりました。今また、OB 会の活動を通じて、様々な生きる力をいただいていると実感しています。これからも AAC OB 会との絆を大切にしていきたいを思っておりますので、よろしくお願いたします。

■ 小澤徹 (S59 卒)



昨年 9 月から転勤で米国カリフォルニア州のサンディエゴにきています。先日、仕事に関係した当地の日本人ネットワークの勉強会に参加しましたが、講師が山岳部の三品先輩 (S52 卒) で、約 20 年ぶりにお会いしました。世界が狭いのか AAC がグローバルなのか分かりませんが。

西海岸は気候も良く、生活するには快適なのですが、歴史や芸術・文化が日本や欧州、米国東海岸と比べても少し淋しいのが難点です。そこで目をつけたのが中南米の遺跡めぐりです。日本から中国に行く位の距離感ですので、この機会に極めておければと思っています。写真はメキシコのテオティワカン遺跡です。

山もロッキーやヨセミテまで行けばあるのですが、長いブランク後に海外で活動再開というのは厳しそうです。その代わりとっては何ですが、最近マラソンに勤しんでおり、先週も地元のマラソンをギリギリ 3 時間台で完走してきました。これも山岳部で鍛えられた体力のおかげだと思っています。

■ 今西規 (S59 卒)



生命情報学の研究に取り組んでいます。誰でも自分自身のゲノムを調べて、さまざまな体質や病気へのかかりやすさを予測できる時代になりました。私は計算機を使ってヒトゲノムの膨大な情報を解析し、医療や創薬に応用していくことをめざして研究をしています。

最近山歩きも時々していますが、天体写真にも凝っており、月や太陽や惑星の写真を撮っています。今年 5 月の金環日食は休暇を取り、双眼鏡と望遠カメラを用意して待ち構えていたのですが、東京の天気予報は曇り。そこで気象データとにらめっこして晴れる地点を予想し、群馬県の赤城山麓まで移動したところ、みごとに晴天に巡り会えました。山岳部時代に気象の勉強をしたのが役に立っています。そのうち北アルプスあたりで満点の星空を撮影したいと思いつつ、なかなか自由な時間が取れないこの頃です。

麻布学園山岳部 OB 会事務局・藤田信一

<http://www.a-a-c.net/> ■